

国語科学習指導案

河内長野市立千代田小学校

指導者 〇〇〇 〇〇

1. 日時 令和8年5月29日（金）6時間目（14：25～15：10）

2. 場所 河内長野市立千代田小学校 6年4組教室

3. 学年・組 第6学年4組（27名）

4. 単元・教材名

主張と事例の関係をとらえ、自分の考えを伝え合おう

『笑うから楽しい』

『時計の時間と心の時間』

『主張と事例』（光村図書）

5. 単元の目標

◎文章の構成や展開、文章の種類とその特徴について理解することができる。

【知識及び技能】(1)カ

○原因と結果などの情報と情報との関係について理解することができる。

【知識及び技能】(2)ア

◎事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章「全体の構成を捉えて要旨を把握することができる。【思考力、判断力、表現力等】C(1)ア

○文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる。

【思考力、判断力、表現力等】C(1)オ

○言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。【学びに向かう力、人間性等】

6. 指導に当たって

(1) 教材観

本単元は、筆者の主張とそれを支える事例の関係を的確に捉え、自分の経験と結びつけて考えを広げる力を育むことをねらいとする。第6学年の説明的文章の学習として、練習教材「笑うから楽しい」で学んだ「主張と事例の関係」を、本教材でさらに深めていく構成となる。

文章構成の面では、「初め」と「終わり」の両方に筆者の主張が述べられている「双括型」の形式をとっている。筆者の主張を支える「中」の部分では、客観的な「時計の時間」

と主観的な「心の時間」を対比的に定義した上で、具体的な事例（心理学的な実験結果）が論理的に展開されている。特に、時間帯による感覚の違いや、受ける刺激の量による進み方の変化など、複数の多面的な事例を挙げることで、目に見えない抽象的な概念を説得力を持って説明しているのが大きな特徴である。

また、本教材は図やグラフを効果的に用いて情報を視覚化しており、叙述と資料を結びつけて理解を深めるのに適した教材である。児童が日常的に抱く「時間が経つのが早い、遅い」という実感と結びつけやすい内容であり、筆者の説明の工夫（用語の定義、事例の順序、資料の活用）を学ぶことで、自らが説得力のある文章を書く際の指針となる極めて価値の高い教材であると考ええる。

（２）児童観

本学級の児童は、記述面では叙述に基づかない主観的な思い込みや論理の飛躍が見られ、読む・書く力には依然として課題がある。具体的には、大事な言葉が抜けたり根拠のない考えを書いたりして、話の辻褄が合わなくなる場面が散見される。

また、正解を求めるあまり「失敗を恐れる」心理的特性が強く、自分の考えに自信が持てない児童が多い。そのため、自力での思考を諦めて友人の考えをうつして安心を得ようとしたり、せっかく考えをまとめていても全体交流の場面では消極的になり、一部の児童しか進んで発表しなかったりと、発信することへの心理的障壁が高い。書ける児童と書けない児童の能力差も顕著であり、全員が自らの思考に確信を持って学習に臨むことが難しい実態にある。

（３）指導観

本校の研究主題【「主体的・協働的な学びの中で、自分の考えを表現できる子どもの育成」～国語科の説明文において読み取る力・書く力を活かして「伝える力」高める指導の工夫～】を具現化するため、本単元では「読み取る力」と「書く力」を双方向的に連動させ、児童が根拠に基づいた自らの考えを自信を持って発信できる指導を展開する。

本学級の児童は、記述における論理の飛躍や、失敗を恐れて自分の考えを表出することに消極的な傾向がある。この課題に対し、まず記述への心理的障壁を下げ、論理的な思考を支えるために「型（フレームワーク）」の提示や ICT を用いた思考の「視覚化」を徹底する。目に見えない思考プロセスを構造図などで形にすることで、児童が自らの考えを客観的に把握し、説得力のある文章構成を自覚的に構築できるよう支援する。

また、協働的な学びの核として「話してから書く」活動を重視する。書く前に自分の考えを友だちに口頭で伝えることで、思考の不足や矛盾に自律的に気づき、多様な視点を取り入れながら考えを深化させる場を設ける。ロイロノート等の ICT を活用して意見を瞬時に共有し、相互に認め合う経験を積ませることは、失敗を恐れず他者と関わりながら表現を磨く態度の育成に繋がる。教材「時計の時間と心の時間」の学習においては、筆者が複数の多面的な事例を挙げている意図を深く探究させる。筆者の説得の工夫を分析し、それを自らの発信に活用させることで、確かな根拠に基づいた説得力のある考えを、明確な相手意識を持って伝え合おうとする児童の姿を目指していく。

7. 単元の評価規準

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
①文章の構成や展開、文章の種類とその特徴について理解している。 (1)カ ②原因と結果などの情報と情報との関係について理解している。 (2)ア	①「読むこと」において、事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章「全体の構成を捉えて要旨を把握している。【思】 C(1)ア ②「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる。 【思】C(1)オ	・進んで事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、学習課題に沿って自分の考えを伝え合っている。

8. 指導と評価の計画（7時間）

	時間	ねらい・学習活動	評価規準（観点） 【評価方法】等 ・指導に生かす評価 ◆記録に残す評価
I	第1時	【笑うから楽しい】 ㊦説得力のある文章の特徴はなにか？ ・短い文章を提示する。説得力のある文章にするためにみんなで肉付けをしていく。 ・事例と主張を学ぶ。	・文章の構成や展開、文章の種類とその特徴について理解している。(知) 【ノート】
	第2時	㊦筆者の意見に共感・共感できない？ 説得力のある文章で書いてみよう。 ・「笑うから楽しい」の筆者の考えに共感できたか、共感できなかったかを考える。 ・説得力のある文章で書かせるようにする。 (経験や体験・実験の結果などを入れさせるようにする。)	◆「読むこと」において、事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章「全体の構成を捉えて要旨を把握している。(思) 【ノート・ロイロノート】
	第3時	【時計の時間と心の時間】 ㊦初め・なか・終わりの始まりはどこかな？ ・段落をわかる ・初め、なか、終わりがどこかを考える ・筆者の主張と結論も考える。	・文章の構成や展開、文章の種類とその特徴について理解している。(知) 【ノート】

第4時	④時計の時間と心の時間のちがいは？ ・時計の時間と心の時間の違いを短くまとめる。 ・4つの事例を確認して納得した事例のアンケートを取る。	・進んで事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、学習課題に沿って自分の考えを伝え合っている。(態) 【ノート】
第5時 (本時)	④説得力のある文章を書くために筆者がしている工夫は？ ・4つの事例から1番共感できた事例を確認する ・他の3つの事例は必要？→なぜ4つ事例を書いたのかを考える。 ・説得力のある文章を書くために筆者が行っている工夫を考える。	・原因と結果などの情報と情報との関係について理解している。(知) 【ノート】
第6時	④筆者の意見に共感？共感できない？説得力のある文章を書こう ・主張と事例をもう一度復習する。 ・説得力のある文章を書く。	◆「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる。(思) 【ノート】
第7時	④納得王は誰だ？ ・班で交流→班の1位を全員で交流する。 ・フォームに選んで書く。	◆進んで事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、学習課題に沿って自分の考えを伝え合っている。(態) 【ノート、ロイロノート、フォーム】

9. 本時の展開

(1) 本時の目標

原因と結果などの情報と情報との関係について理解することができる。

(2) ア

(2) 本時の評価規準

原因と結果などの情報と情報との関係について理解している。(2) ア

(3) 本時の判断基準

十分満足できる状況 (A)	概ね満足できる状況 (B)	努力を要する子どもへの支援(C)
・ 事例と事例の関係を理解し、説得力のある文章を書くためポイントを複数理解している。	・ 事例と事例の関係を理解している。	・ 筆者の主張を確認しながら、4つの事例の関係を考えさせる。

(4) 本時の学習過程

時	学習内容	・ 指導上の留意点 ○予想される児童の予想	評価規準（観点） ◆記録に残す評価 【評価方法】
2	1. 前時で行ったアンケートの結果を確認する。	・ 「どう感じるか」の結果が一番多い結果ということを確認する。	
8	2. どうして「どう感じるか」に集中したのかを考える。	・ 一番共感できる内容が「どう感じるのか」だったということを理解する。 ○自分もそんな経験をしたことがあるから。 ○ゲームしているときは時間が経つのが早い。 ○授業中は45分が長い。 ・ 「他の3つの事例は必要？」と発問する。	
	㊤説得力のある文章を書くために筆者がしている工夫は？		
2	3. 事例の書いてあるページを音読する。	・ 教科書 P57・10行目～P60・9行目の間で読ませるようにする。 （読む場所は子どもたちに選ばせる。）	

2	4. 事例を4つ書いた理由を一人で書く前に、ペアで話し合い、考えを整理する。	・考えを整理する時間をとる。考えがまとまっていない児童は話しながら考えを整理する。また、考えが思いついていない児童は隣の児童の考えを参考にしてもよい。	
4	5. 筆者が事例を4つ書いた理由をノートに書く。	・「筆者が4つ事例を書いた理由は〜〜〜だと思います。」という型を示して書く。 ・型を示すが、自分で工夫して書いてよいということも伝える。 ○1つだけだったら納得できない人もいるから。 ○複数あった方が納得できる人多そう。 ○私は「時間帯」の方が共感できたから」	
2	6. 隣の人と意見を交流させて、発表する意見を決める。	・①自分の意見を相手に伝える ②二人の意見のうち1個以上発表する意見を決める ③発表する人を決める - この3つの順番でペア交流を行う。	
		・ペア交流で決めた内容を発表する。 ・追発問などをおこない、内容	

20	7,全体交流をする。	を深めていく。 追発問例 ・他に筆者の工夫はないかな？ ・アンケートの結果を見て気づいたことはない？ ・事例に順番で気づいたことはなにかある？	
5	8.ふりかえりをする。	・「説得力のある文章を書くには～～～が大切です。」	◆原因と結果などの情報と情報との関係について理解している。 (2)ア 【ノート記述】

10. 板書計画

感覚が違う	身の回りの環境	時間帯	どう感じるか	筆者が4つ事例を書いた理由は～～～だと思います。	・ゲームで時間がたつのは早いから ・授業中の時は時間がたつのが遅いから どうして①が多い？	④説得力のある文章を書くために筆者がしている工夫は？	皇月二十九日 時計の時間と心の時間 一川 誠 文
-------	---------	-----	--------	--------------------------	---	----------------------------	--------------------------------

11 討議の柱

- ・説得力のある文章を書く3つのポイントをおさえるために、授業の流れはよかったのか。
- ・伝え合うための準備として、説得力のある文章の特徴を理解することができていたのか。